

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	交流政策課	職	課長	氏名	宗田 好雄
評価者	組織	観光振興課	職	課長	氏名	新谷 和幸
評価者	組織	国際観光課	職	課長	氏名	斉藤 博

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進	観光入り込み客数	千人	25,000 (H27)	20,985 (H23)	21,055 (H24)	B

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
施策1	課題1 新ほっと石川観光プランの推進 (3大都市圏誘客1000万人構想の推進)	1 3大都市圏からの入り込み状況	千人	10,000 (H27)	6,969 (H23)	6,832 (H24)	1 石川県観光創造会議開催費	観光客全般	1,500	1,500	B	継続
		2 隣県からの入り込み状況	千人	3,150 (H27)	2,607 (H23)	2,576 (H24)	2 いしかわ観光特使ネットワーク事業費	観光客全般	5,500	5,500	A	拡大
							3 いしかわ型ニューツーリズム推進事業費	観光客全般	3,000	3,000	B	見直し
	課題2 新ほっと石川観光プランの推進 (海外誘客10倍増構想の推進)	外国人宿泊客数	人	500,000 (H27)	106,933 (H23)	162,161 (H24)	海外誘客促進事業費	外国人観光客	70,240	70,240	B	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	石川県観光創造会議開催費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度		
		根拠法令	新ほっと石川観光プラン			
		・計画等				

作組	織	観光振興課			
成職	・氏名	専門員 巽 陽一			
者電	話番号	076 - 225 - 1127 内線 3918			

事業の背景・目的

観光施策の指針となる「新ほっと石川観光プラン」の推進にあたって、高い識見をお持ちの各界各層の方々から新しい時代の観光振興政策に対する大所高所からのご提案をいただき「石川県観光創造会議」を開催し、その提案を活かした新しい時代にふさわしい観光振興策を展開する。

事業の概要

I 石川県観光創造会議

1. 会議の構成
 - (1) 委員数 20人
 - (2) 構成 各分野の第一人者（交通、国際、観光、芸術・文化、食、海外誘客など）
 - (3) その他 委員のほか、特別顧問（石川県観光大使）として、仲代達矢氏など10名が就任
2. 会議の概要
 - (1) 開催数：年1回
 - (2) 役割
 - ①北陸新幹線開通を見据えて、新しい観光のあり方等への提案
 - ・国内外からの入り込み客数の目標達成に向けた誘客方策
 - ・石川の魅力、個性、印象など観光石川のブランド創出に向けた方策
 - ②本県の観光応援団としてのPR的機能を発揮
 - (3) 開催時期：平成24年11月3日
 - (4) 開催場所：奥能登行政センター

II 観光総合プロデューサーの設置

1. 目的 観光プランを総合的に推進するため、全体にわたって企画等の指導、助言をするプロデューサーを配置し、プラン推進の原動力の役割を担うこととする。
2. 観光総合プロデューサー 早川 和良氏（CMプロデューサー）

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進					評価	B
課題	新ほっと石川観光プランの推進						
	指標	3大都市圏からの入り込み客数				単位	千人
	目標値	現状値					
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	10,000	6,795	6,999	7,268	6,969	6,832	
	指標	隣県からの入り込み客数				単位	千人
	目標値	現状値					
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	3,150	2,419	2,583	2,605	2,607	2,576	

事業費						
(単位：千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算	1,739	2,000	1,750	1,500	1,500
	決算	1,739	2,000	1,750	1,500	1,500
一般	予算	1,739	2,000	1,750	1,500	1,500
財源	決算	1,739	2,000	1,750	1,500	1,500
事業費累計		7,095	9,095	10,845	12,345	13,845

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	これまでの会議における意見・提言を基に、スイーツを活かした観光誘客事業やおもてなしの推進をはじめとした受入環境整備などについて、事業化が図られている。 平成24年5月に開業した東京スカイツリー等の影響により、全国的に関東方面への観光が増加する中、本県への入り込み客数が前年度並みの水準を維持するなど、一定の成果が見られた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	観光施策の指針となる「新ほっと石川観光プラン」を実効性のあるものとするため、高い識見を持つ各界各層の方々から常に新しい時代の観光振興策に対する提案を頂き、それを活かした観光振興策を展開していく必要がある。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ観光特使ネットワーク推進事業費	事業開始年度	H19	事業終了予定年度		作成者	組織	観光戦略推進部企画調整室	
		根拠法令・計画等	新ほっと石川観光プラン				職・氏名	専門員 土田 ちえ子	

◎事業の背景・目的
 北陸新幹線の金沢開業も見据え、首都圏をはじめとした全国へ石川の観光情報を発信するため、本県の魅力をPRしていただける方を、平成22年度に「いしかわ観光特使」として委嘱した。
 本事業では、全国の特使や県人会等のネットワークを強化・活用し、ロコミによる情報発信体制をより強固なものとする事で、本県への誘客を促進する。

◎事業内容
 (1) ネットワーク強化事業
 ・ネットワーク交流活動報告会の開催
 観光を中心とした最近の県政報告のほか、特使による活動報告、観光事業者による情報提供、特使同士の交流の場を提供し、特使の資質の維持向上を図る。
 ・開催場所 県内、首都圏、関西圏、中京圏
 ・開催形態 報告会、交流会を開催

(2) 活動サポート事業
 ・県内観光施設等の見学ツアーの開催
 ・PRツールの提供(※緊急雇用)
 ・メルマガやパンフレットの送付による最新情報の提供(※緊急雇用)

施策・課題の状況							
施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進					評価	B
課題	新ほっと石川観光プランの推進						
指標	3大都市圏からの入り込み客数					単位	千人
目標値	現状値						
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
10,000	6,795	6,999	7,268	6,969	6,832		
指標	隣県からの入り込み客数					単位	千人
目標値	現状値						
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
3,150	2,419	2,583	2,605	2,607	2,576		
事業費							
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
事業費	予算	2,000	2,000	7,000	5,500	5,500	
一般	予算	2,000	2,000	7,000	5,500	5,500	
財源	決算	2,000	2,000	7,000	5,500	5,500	
事業費累計	4,000	6,000	13,000	18,500	24,000		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	観光特使には、それぞれの生活やお仕事など日常の活動の場で本県の観光魅力についてPR活動を行っていただけており、H22～23年度で約7,800名の誘客につながるなど、着実に成果があがっている。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	観光特使の意欲と知識の維持向上を図るため、研修旅行やセミナーの開催など、さらなるスキルアップを図っていただくとともに、観光情報を定期的に提供し、観光特使の活動をサポートするほか、県人会等とともにさらに連携した「首都圏いしかわ交流会」の開催や、特使への新たなPRツールの配布を行うなど、誘客への情報発信体制を強化していく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ型ニューツーリズム推進事業費	事業開始年度	H19	事業終了予定年度		作 組 織 観光振興課
		根拠法令・計画等	新はっと石川観光プラン			
						者 電話番号 076 - 225 - 1127 内線 3918

<目 的>
 近年の旅行者は、単なる物見遊山的な観光から、「本物」、「癒し」、「体験」など、知的満足感を求める傾向にあり、これら旅行者ニーズの多様化により、エコツーリズムや産業観光など、新しい形態の旅行が注目を集めている。多様化する旅行者ニーズに対応するものとして従来から推進してきたツーリズムのほか、旅行者の新しいニーズに対応するため、国の施策や観光創造会議での意見等を踏まえながら、新しい形態のツーリズムの開発に取り組み、「観光立県石川」の多様なツーリズムメニューを開発促進する。

<事業内容>

(1) ヘルスツーリズム推進事業
 県内の旅行会社や宿泊事業者、医療関係者等がヘルスツーリズムへの理解を深めるためのセミナーを開催

- ・開催日 H24. 11. 26
- ・参加者 約70名
- ・内 容 先進事例の紹介、モデルツアーの実施

(2) アーキテクチャツーリズム推進事業
 建築 (Architecture) をテーマとした「アーキテクチャツーリズム」の推進を図るため、アーキテクチャツーリズム研究会を開催するとともに、情報発信ツールとしてパンフレットを作成

- ・開催日 H24. 5. 22、12. 3
- ・参加者 委員9名
- ・内 容 パンフレット作成に向けたアドバイスの聴取
- ・部 数 2 万部

施策・課題の状況							
施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進					評価	B
課題	新はっと石川観光プランの推進						
指標	3大都市圏からの入り込み客数					単位	千人
目標値	現状値						
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
10,000	6,795	6,999	7,268	6,969	6,832		
指標	隣県からの入り込み客数					単位	千人
目標値	現状値						
平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
3,150	2,419	2,583	2,605	2,607	2,576		
事業費							
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
事業費	予算	500	1,500	2,500	3,000		
	決算	500	1,500	2,500	3,000		
一般	予算	500	1,500	2,500	3,000		
財源	決算	500	1,500	2,500	3,000		
事業費累計		500	2,000	4,500	7,500		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ヘルスツーリズムについては、セミナーの開催やモデルツアーの実施により、事業者間の連携やヘルスツーリズムへの理解が深まり、新たなツーリズムとして定着しつつある。アーキテクチャツーリズムについては、全国に先駆けて開発に取り組み、モデルコースを紹介するガイドブックや、旅行会社の販促に活用するDVDの作成が完了した。今後、これらを活用し、ニューツーリズムの新たなメニューとして商品化が期待されている。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	「グリーンツーリズム交流拡大事業」を統合し、これまでのいしかわ型ニューツーリズムの最大の魅力である「人とのふれあい」に焦点をあてた「ふれあいと体験の旅事業」として、情報発信等を行い、本県への旅行意欲の喚起及び旅行後の継続的な交流の促進を図っていく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	海外誘客促進事業	事業開始年度	H2	事業終了予定年度		作 組 織	国際観光課
		根拠法令 ・計画等	新ほっと石川観光プラン			成 職・氏名	課長補佐 北口 義一
						者 電話番号	076 - 225 - 1128 内線 3921

事業の背景

平成17年3月に策定した「新ほっと石川観光プラン」の海外誘客3倍増構想(平成26年までに15万人)は、平成19年に既に達成(161,902人)したことから、平成20年9月に海外誘客10倍増構想(新目標値50万人)に上方修正し、今後更なる誘客を目指す。

海外誘客10倍増構想(50万人)達成に向けた取り組み

- 1 東日本大震災後の誘客回復(追加対策)
 - ・ 原発事故のアレルギーが強く低迷する欧州からの誘客展開
 - ・ アジアの中でも回復が遅れている韓国からの誘客展開
- 2 本県とのチャンネルを最大限活用した誘客活動の展開
 - ・ 観光特使の紹介により道筋のついた北京からの誘客
 - ・ 中国専門家を活用した誘客促進
- 3 小松定期便を利用したインバウンド需要の拡大
 - ・ エバー航空との連携強化による誘客促進
 - ・ 大韓航空との連携強化による誘客促進
- 4 国毎にターゲットを絞った誘客活動の展開
 - ・ 趣味やレジャーなど、国別の嗜好に応じた戦略的誘客活動
 - ・ 中国をはじめとする教育旅行誘致の強化
 - ・ 個人旅行客の受け入れ拡大に向けた体制づくり
- 5 新たな市場からの誘客促進
 - ・ タイからの誘客促進
- 6 民間活力を生かした誘客活動の拡大
 - ・ 県内観光事業者の裾野を拡大し海外でのPR活動を強化

事業概要

- (1) 台湾インバウンド事業 20,000千円
- (2) 韓国インバウンド事業 6,900千円
- (3) 中国インバウンド事業 11,900千円
- (4) 欧米豪インバウンド事業 14,200千円
- (5) 香港・東南アジアインバウンド事業 6,500千円
- (6) 誘客民間活動支援奨励事業 2,000千円
- (7) 羽田空港の国際化対応事業 500千円
- (8) 外国人受入環境整備事業 1,000千円
- (9) 情報発信事業 1,500千円
- (10) 広域連携負担金5,740千円

施策・課題の状況

施策	3大都市圏誘客1000万人構想の推進と海外誘客10倍増構想の推進					評価	B
課題	新ほっと石川観光プランの推進						
指標	石川県内外国人宿泊者数					単位	千人
目標値	現状値						
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	500,000	194,012	131,035	169,113	106,933	162,161	
事業費							
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算	42,600	54,500	56,000	80,281	70,240	
	決算	42,590	54,490	47,058	80,281	70,240	
一般	予算	42,600	54,500	56,000	80,281	70,240	
	決算	42,590	54,490	47,058	80,281	70,240	
財源	予算	42,600	54,500	56,000	80,281	70,240	
	決算	42,590	54,490	47,058	80,281	70,240	
事業費累計		171,238	225,728	272,786	353,067	423,307	

評価

項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	それぞれのお国柄に応じた効果的な手法により本県の観光の魅力を発信することができた。特に台湾については、小松・台北便の増便(デイリー化)につながるなど一定の成果が得られた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	人口減少時代を迎え、国内観光のパイが限られている中、交流人口の拡大を図るには、年々拡大する海外からの観光客の誘客に目を向けていくことが重要であり、今後とも引き続き、国や隣県、県内市町及び民間事業者との連携を深めつつ、東アジアをはじめ、東南アジアや欧米等、重点市場からの誘客に積極的に努める必要がある。